

## はじめに

おかげさまで前作の著書が出版されてすぐに第二弾を、とお話をいただきました。

前書は「氣とは」「氣功とは」を皆様にお伝えしたくて、入門書として書き上げました。多くの方々に貴重なお言葉を授かり、この場を借りて深く感謝とお礼を申し上げます。

本当に知れば知るほど素晴らしく、奥の深いすごい世界だと感じます。

時期がくれば、集大成を書き上げたいと思います。

本書は、前書で最後に触れました「アセンション」の続編になっています。

すべてには、それぞれに「原因」があり、それぞれの「結果」があります。

その「結果」の一つとして、人類が直面している大きな問題を取り上げました。

それは私たちの住む大地、地球に関するものです。

今回の執筆に関しては、人類が直面している大きな問題を取り上げていますが、前知識として「すべての成り立ち」「人の成り立ち」の基本も知っていただきたいと思えます。

ただ、「すべての成り立ち」「人の成り立ち」を知っていただく必要があるのか、本書の内容についてここまで書いていいのか迷いました。

結論は、「すべての成り立ち」「人の成り立ち」をしつかりと理解していただき、私たちの住む大地、地球に関して、伝えるべきことはすべて書くことにしました。

例えば、「橋」は何のためにあるかと思ったとき、対岸に渡るためにある、と目的がわかればいいのであってその工法、種類、材質などは知る必要はないのかもしれないかもしれません。

しかし、工法、種類、材質などを詳しく知っていれば、自分が「いざ」となったとき、作ることができ、作ることができれば生活に生かせます。

目的を知るだけでなく、その方法を知ること与实践ができる。それは「世」を動かすことにつながります。

目的を知っているだけでは何もできず、人任せの人生になってしまいます。

「すべての成り立ち」「人の成り立ち」を知れば、本書の意義をより深く理解していただけたと思います。

この二つの章は、理論や哲学で展開していますので、どうしても専門用語が出てきます。前書の「玄光」でも書きましたが、定義や概念を理解していただきたいと思います。

例えば、「一十一 $\parallel$ 二である」という定義はなぜ、「一十一 $\parallel$ 二」なのか。

「一十一 $\parallel$ 二」がなぜ成り立つのかを考えると

「一」「二」という数の定義

「+」という操作の定義

「 $\parallel$ 」という記号の定義

により、そうなるようになっていく。

一十一がもし二でなかったら、その先にある数学の論理が成り立たなくなります。

学問というのは現実をなんらかの形で表現するための一種の方法であり、

「一十一 $\parallel$ 二」になったのは昔からであり、そうなるように定義した。

要するに普段当たり前のように使っているモノも、常識も、「誰かがこうしましょう」と決めたモノにすぎません。

決められたモノを幼い頃より学習させられ、無意識に普通に使っているだけなのです。

「心臓」などの臓器の名称や役割、身体のどこにあるかはわかっていても、

なぜ「心臓」と呼ぶのかはわかりません。

「心臓」は「心臓」と疑いもなく丸暗記させられてきた、だけです。

そして概念とは、

例えばチワワを見ても、チャウチャウを見ても、ゴールデンレトリバーを見ても、犬だと理解します。

このように、まったく違うものを見ても犬だと理解していることを概念といいます。

つまり、犬の概念があるから、犬がわかるのです。

概念がないのは、そのイメージがない、ということです。

他国の習慣とか、宗教とか、感覚そのものがわからない場合には、概念がないということになります。

ですからわからない専門用語が出てきても、定義や概念として「そういうモノだ」と捉えてください。

「原因」と「結果」を知ればいい、と思われる方は、

序章、第一章、第四章を読んでいただくだけでもいいと思います。

皆様にはお好きなかたちでお読みいただければ、と思います。

そしてもう一点、本書は人類の大きな問題を提唱するものではありませんが、  
危機感をあおるものではありません。

人類が直面している大きな問題を「氣の世界での心のあり方、捉え方」で、話していきたいと思えます。

真智護法 玄光氣道

真智護法 玄光院

玄法師 細川 昂佑